

ランス)、ADAC (ドイツ) の連携を述べられた。日本交通科学協議会 (現日本交通科学学会) の故富永誠美先生 (元警察庁初代交通局長) や救急ヘリ病院ネットワークワーク (HEM-Net) の國松孝次会長 (元警察庁長官) のご理解にも触れられ、政治的バックアップがあってこそ、この事業も軌道にのっていることも述べられ、感動的なものであった。

25周年の記念座談会は、HEM-Netの篠田伸夫理事長が司会をされ、ドクターヘリの過去・現在・未来で、医師、運航会社、フライトナースなど、7人の演者が討論した。元厚生労働省課長補佐の土居弘幸先生が、「人の命を救う、当たり前の価値観」との認識でドクターヘリ事業が推進されたと思い出話をされた。日本に初めて正式にドクターヘリが配備されたのは2001年4月で、2018年9月現在では、全国43道府県に53機のドクターヘリが配備されている。今回の学会で、全国の基地病院の基本情報が1冊の冊子

にまとめられて、顔の見える関係に役立った。その他、ドクターヘリのレジストリー、災害でのDMAT活動、多職種の連携、運航会社のロジステックス、フライトナースの将来など、活発な討論が行なわれた。

初日には新しく倉敷アイビースクエアにできたエメラルドホールで懇親会が開かれ、各ドクターヘリ病院が短時間であるがビデオ紹介された。懇親会では学会25周年のケーキも用意された (写真2)。

おわりに

25年の節目に、ドクターヘリ発祥の地である倉敷で学会が開催された。今後とも各機関の連携を強化し、安全性を継続していかねばならない。多発する自然災害に加え、来る2020年の東京オリンピック・パラリンピックでも、ドクターヘリを含め航空搬送の役割は期待されている。



写真1 開会式での荻野隆光会長



写真2 学会25周年のケーキ

「医師資格証」を持ちましょう

診療情報提供書等へのHPKI電子署名に対応しています



<問い合わせ先>

北海道医師会 事業第一課

TEL 011-231-7661

<http://www.hokkaido.med.or.jp/doctor/credential.html>

日本医師会電子認証センター

<http://www.jmaca.med.or.jp/>

『医師資格証』はHPKI(保健医療福祉分野公開鍵基盤)の枠組みを使った日本医師会認証局が発行する医師資格を証明するカードです